

「脳のリハビリ」で半身麻痺を克服
「道具も薬もお金も使わず」自分で機能回復

脳内出血による左半身麻痺を「道具も薬もお金も使わない」。
”自分流”機能回復訓練で克服した恵那市岩村町の建設会社社長・堀尾憲市さん（66）が、無償でそのコツを伝授。発病から4年間経過した男性が、3週間で自力歩行できるまでに回復し、話題を集めています。

コツをボランティアで伝授

堀尾さんは昨年2月、脳内出血を発症し左半身が麻痺。座ることさえできない中、希望を与えてくれたのは、見舞いに来てくれた医学博士。「脳細胞のうち使っているのは5%程度。残りは異変が生じた際、補うために待機している」と聞き、可能性を感じたのです。感覚のない左手の親指と脳を「つなぐ」ことに挑戦。感覚のある右手に左手の親指を乗せ、「押しイメージ」を一日何千回も繰り返しました。

その結果微動だにしなかった親指が動くようになって自信を得、次々に新しい部位を克服。5ヵ月後には、自分で車を運転し東北の被災地を見舞うまでになったのです。

「重度の自分が回復できたのだから、同じ方法で体の自由を取り戻せる人も多いはず」と考えた堀尾さんは3月8日、中律川市のちこり村で開かれた講演会の会場で自らの体験を発表。同施設の一室を借り希望者に伝授するボランティアを始めました。

その生徒第1号の原立志さん（52）＝同市坂下は4年前、脳内出血で倒れ左半身が麻痺。リハビリを続けてきましたが装具と杖が無ければ歩くことができませんでした。

しかし堀尾さんに脳機能回復のコツを教わり、すぐに左手の指が動くように。7回目には杖がなくても歩けるまでに回復し、これには堀尾さんもびっくり。家族も「明るく意欲的になった」と喜んでいきます。

堀尾さんは「回復は病状や本人の意欲にもよりますが、お金がかからず副作用もないので試してみる価値はあるはず。原さんのような方が増え”治る病”になればいい」と話しています。た草博士。一しなかつIで見のだから、同じきましたか、装具と杖からず、副作用もない

問い合わせは電話090（3309）2352堀尾さん。